

芙蓉リースグループ CSR報告書 2014

ハイライト版



FUYO LEASE

CONTENTS

コーポレートスローガン	
会社概要	1
トップメッセージ	2
ソーラー発電事業	3
リマーケティング事業	5
ESCOサービス	7
PC Eco & Valueリース、PCレンタル	9
担当役員メッセージ	
環境負荷低減の実績	10
社会貢献活動	
「アクアdeスマイル」	11
インターンシップ	
社員教育制度『FUYO「やる気」応援塾』	13
福祉・介護研修	14

コーポレートスローガン

前例のない場所へ。

私たちは考える。

リースとはモノを貸すことではない。発想を、頭脳を、驚きを貸すことだ。

私たちは考える。

無理難題こそ歓迎したい。新たなビジネスは、そこからしか生まれない。

私たちは考える。

期待に応えるのは義務である。期待を超えてこそ仕事である。

私たちは考える。

ともに成功するのはたやすい。苦しい時も向き合えるのがパートナーである。

私たちは行動する。

この国のビジネスを、もっと自由にするために、

私たちから大胆になる。

リースにできることを広げてゆく。

私たちは芙蓉リースです。

会社概要

●企業データ (2014年3月31日現在)

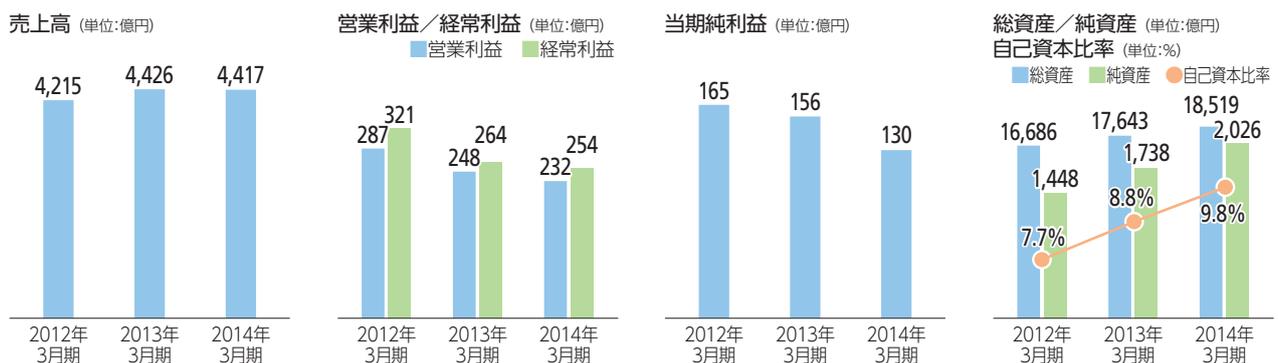
商号	芙蓉総合リース株式会社 (Fuyo General Lease Co., Ltd.)
設立	1969年5月1日
資本金	10,532百万円
上場市場	東京証券取引所 市場第一部 (コード: 8424)
従業員数	連結1,521名、単体660名
本社所在地	東京都千代田区三崎町3丁目3番23号 (ニチレイビル) TEL: 03 (5275) 8800 (代)

- 事業内容**
- 情報関連機器、事務用機器、産業機械、工作機械、商業用店舗設備、医療機器、船舶/航空機/車両ならびに輸送用機器、建築土木機械などのリースおよび割賦販売業務
 - 金銭の貸付、その他各種金融業務
 - 不動産リース
 - 生命保険の募集業務
 - 各種コンサルティング業務

- 営業拠点** (2014年10月1日現在)
- 国内: 本社営業部および16拠点
 - 海外現地法人: 4社5拠点

- 主な国内連結子会社**
- 芙蓉オートリース株式会社
 - 株式会社エフ・ジー・エル・サービス
 - 株式会社芙蓉リース販売
 - 株式会社アクア・アート
 - 株式会社エフ・ネット
 - 株式会社ワイ・エフ・リーシング
 - シャープファイナンス株式会社

●業績などの推移(連結) ※3月決算



新たな「CSR行動指針」のもと 地球環境と社会の未来に 貢献していきます

取締役社長 佐藤 隆



芙蓉リースグループは、社会の一員として持続的に成長していくためには、その事業を通じて地球環境問題の解決や社会の発展に積極的に貢献していくことが重要であると考えています。こうした考えを社内外のステークホルダーに改めて示し、グループ一丸となって取り組んでいくために、2014年4月、新たな「CSR行動指針」を策定するとともに、2016年度までの数値目標を設定しました。

そして、環境と社会への貢献をめざす私たちの取り組みは、着実に成果を上げています。例えば、「メガソーラー事業」はその一つで、太陽光パネルのトップメーカーであるシャープ株式会社と共同で設立した「合同会社クリスタル・クリア・ソーラー」は、2017年3月末までに、30カ所の

メガソーラー発電所で約30,000世帯分の電力を供給する計画です。また、資源有効活用・廃棄物削減の面では、2012年度に拡張移転した「東京3Rセンター」を中核拠点に、中古物件のリユース・リサイクルに取り組んでいます。国内リース会社では最大規模となる同センターの処理能力を活かし、近年はオフィス移転時の中古什器の一括買い取りを始めるなど、ビジネスを通じた環境貢献に一層注力しています。さらに、インテリア水槽「アクア・アート」を活用したさまざまな社会貢献活動にもチャレンジしています。

今後も当社グループは、「環境・社会への貢献」に真摯に取り組み、企業としての発展をめざしていきたくと考えています。

●CSR行動指針

FUYO LEASEグループは、「人と地球にやさしい」事業に真摯に取り組み、持続可能な社会づくりに貢献したいと考えています。

- ① 環境関連分野におけるリースや商品・サービスを、積極的に提案・提供します。
- ② 再生可能エネルギー事業者として、クリーンエネルギーの供給を推進します。
- ③ 3Rの実践領域を拡大し、廃棄物の発生を抑えた循環型社会の実現に寄与します。
- ④ アクア・アート事業を通じて、オフィスや街中、そして都会の子供たちに「自然に触れる機会」と「笑顔」を届けます。

●2016年度の目標値

項目	目標値
環境提案(件数)	2,300件
環境配慮型物件の取得(金額)	100億円
クリーンエネルギーの供給(出力規模)	100MW
リマーケティング(買取物件数)	100,000件
アクア・アート(稼働台数)	900台

ソーラー発電事業の拡大

— 全国9カ所で約6,400世帯分のクリーン電力を供給

福島第一原発の事故以来、国内の電力供給体制は大きく見直され、太陽光・風力・地熱といった自然の力で生み出される「再生可能エネルギー」供給設備の拡大は、エネルギー政策の最重要課題の一つと位置づけられています。芙蓉リースは、こうした重要課題の解決に向けて、メガソーラー（大規模太陽光発電所）事業に進出し、その拡大に取り組んでいます。

2012年10月には、太陽光発電で50年の歴史をもつシャープ株式会社と共同出資^{※1}で合同会社クリスタル・クリア・ソーラーを設立。シャープの高い製品力と発電所の開発・運営のノウハウ、当社のソリューション力とファイナンス機能を一体化させることで、2014年3月ま

で全国9カ所にメガソーラー発電所を設置し、発電を開始しています。

9カ所合計の設置容量は約22MWで、年間予測発電量は2,300万kWhと、一般家庭の年間消費電力量で約6,400世帯分^{※2}に相当します。今後これを3倍以上に増やし、クリーン電力の供給を拡大する計画です。

また、今後は福島県など東日本大震災の被災地におけるメガソーラー事業も計画しており、復興支援にも貢献していきたいと考えています。

※1 出資比率 芙蓉リース75%、シャープ25%

※2 一世帯あたり3,600kWhで計算

シャープ大山の森 太陽光発電所（鳥取県米子市）



共同出資会社による関東最大規模のメガソーラーが稼働

芙蓉リースと、ミツウロコグリーンエネルギー株式会社、株式会社レノバが、茨城県潮来市に共同出資して設立した株式会社水郷潮来ソーラーが、2014年2月にメガソーラーの商業運転を開始しました。設置容量は14.7MWと、稼働開始時点の太陽光発電所では関東最大級の規模。年間予想発電量は約1,470万kWhで、一般家庭の年間消費電力量で約4,000世帯分に相当します。

隣接する「道の駅いたこ」には、発電所が一望できる展望台と発電量表示モニターが設置され、一般の方にもメガソーラーを見学いただけるようになっています。

また、本事業の収益の一部は「太陽のめぐみ基金」を通じて、市内の小中学校などに寄付され、「地域社会に貢献する発電所」をめざしています。



千葉県でも共同出資によるメガソーラーが稼働

さらに3社とみずほメガソーラーファンドは、共同出資で千葉県富津市に株式会社富津ソーラーを設立。水郷潮来ソーラーの3倍近い40.4MWの富津ソーラー発電所が2014年7月に稼働を開始しています。





環境経営に取り組む お客様を支援

—「3R」に貢献するリマーケティング事業

Customer's VOICE

SoftBank Technology

ソフトバンク・テクノロジー株式会社

オフィス移転時の課題が解決

ソフトバンクグループの中でICTサービス事業を担う当社は、成長戦略の一つとして人員採用を積極的に進めており、それに伴う社員の増加に対応するため、2014年2月に本社を移転しました。

新オフィスは約1,000名の収容が可能で、コミュニケーションの活性化を図るため、今まで複数拠点に分かれていた社員をワンフロアに集約。最先端のクラウド、モバイルソリューションを集約した「次世代オフィス」と位置づけ、当社が提供するソリューションを自ら導入することで、ショールームとしての役割も果たしています。

今回の移転に際して大きな課題となったのが、旧オフィスの中古什器や情報機器が廃棄物として大量に発生することでした。

しかし、中古品の買い取りから情報機器のデータ消去、廃棄物適正処理のアドバイスまで、ワンストップで



ソフトバンク・テクノロジー株式会社 総務グループの皆様

提供してくれる芙蓉リース販売のリマーケティングを活用することで、「環境とコスト」の両面で課題を解決することができました。



ソフトバンク・テクノロジー株式会社の新オフィス

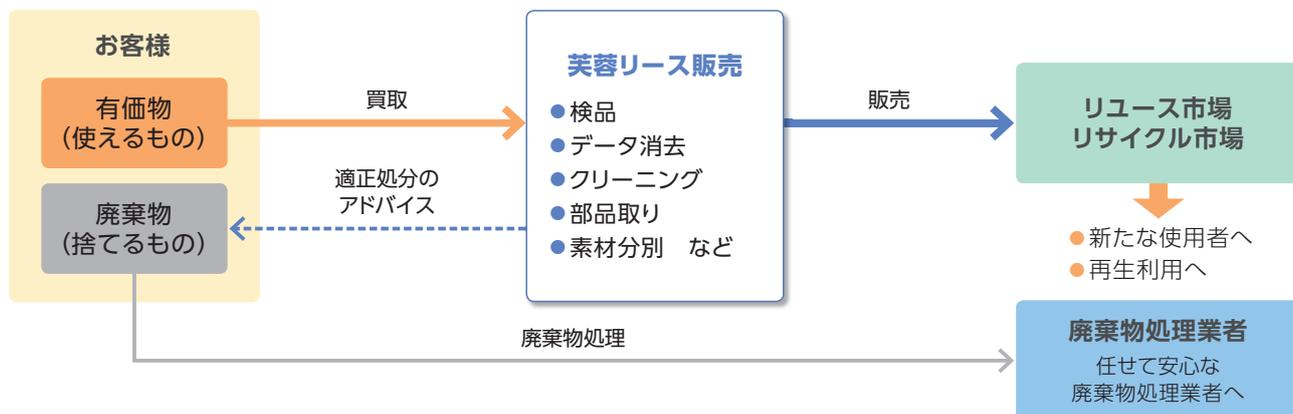
■ ご不要な機器・設備を買い取ってリユース、リサイクル市場へ

芙蓉リースのリース満了処理を担当するグループ会社芙蓉リース販売では、長年培ったリース満了物件処分のノウハウを活かして、環境とコストに配慮した最適なソリューションをお客様に提供する「リマーケティング事業」を展開しています。

企業の事務所の移転や機器の入れ替えなどにおいて発生する不要資産は、捨ててしまえば「廃棄物」となり、廃棄

費用もかかります。そこで、芙蓉リース販売では、これら中古資産を買い取り、リユース・リサイクル市場を通じて、新たな使用者に販売することで、再利用を促進しています。買い取りにあたっては、ご要望に応じてパソコンなどの情報機器に含まれるデータ消去も承っています。また、リユース・リサイクルが困難な物件に関しては、お客様に対し廃棄物の適正処理のアドバイスも行っています。

● リマーケティング事業の仕組み



■ 本格稼働する東京3Rセンター

2013年3月に東京都八王子市に移転・拡大した「東京3Rセンター」は、リース満了物件とリマーケティング事業による買い取り物件をリユース・リサイクルする中核拠点です。循環型社会への貢献をめざすとともに、万全の情報セキュリティ体制による施設運営を行っています。

本格稼働した2013年度は、リース満了物件と買い取り物件を合わせて約8万点の物件を受け入れました。



専用セキュリティールームで行うデータ消去

地域医療を担う中核病院の 設備更新と省エネ対策に貢献

— 省エネ改修を促進するESCOサービス

芙蓉リースと株式会社朝日工業社で構成する事業者は、JA北海道厚生連が運営する総合病院「遠軽厚生病院」におけるESCOサービスを、2014年4月から開始しました。

同病院は北海道紋別郡遠軽町に位置し、地下1階、地上5階(延床面積23,891㎡)、病床数337床の地域最大の総合病院です。本館が築後20年以上経過し、老朽化した設備の更新と省エネ対策が課題となっていました。

また、地域の中核病院として、災害時にも医療を継続するための対応が検討されている状況でした。

自己資金などによる設備更新も検討していましたが、オフバランスでの分割費用支出により財務の健全化を図りながら、病院単位での自律経営により地域医療を維持

する必要があるため、ESCO事業を選択しました。

そこで、当社と朝日工業社は、「今後の病院経営を支えるESCO事業であること」をコンセプトに、省エネ・省コストの最大化を図ることで、設備老朽化対策に加え、BCP強化・安全・環境改善を同時に実現するESCOサービスを共同提案し採用されました。

改修工事にあたっては国庫補助金も活用し、高効率な空調・給湯熱源設備機器への更新や、廃熱利用システムの導入、病室の空調機器更新、マイクロコージェネ導入による燃料転換と熱源分散化など、23項目にわたる対策を実施しました。

これらの対策の結果、導入前後で年間エネルギー使用量は、約24%削減される予定です。



●改修前後のデータ

平成23年度	改修前(基準消費量)		
	電気[kWh]	ガス[m ³]	油[ℓ]
合計	4,319,893	2,807	765,074
一次エネルギー消費量(GJ/年)	43,069	304	29,914
計	73,287		
エネルギー消費原単位(MJ/m ² ・年)	3.068		
	改修後(予想消費量)		
	電気[kWh]	ガス[m ³]	油[ℓ]
合計	3,364,850	33,609	472,865
一次エネルギー消費量(GJ/年)	33,548	3,637	18,489
計	55,674		
エネルギー消費原単位(MJ/m ² ・年)	2.330		

●省エネ効果



Customer's VOICE



北海道厚生農業協同組合連合会

写真左から
遠軽厚生病院
事務次長 大友 謙一様
ボイラー主任 高嶋 政美様
総務課長 北川 剛様



新規に導入した貫流ボイラーの前で

設備更新時の課題が解決

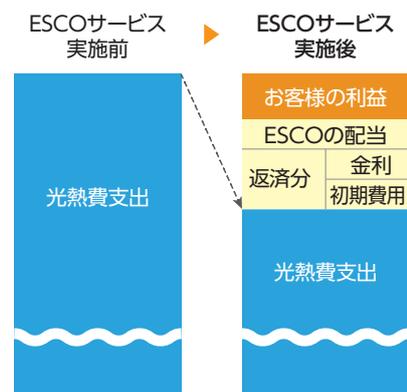
当院は、1942年の開設以降、地域から「最も信頼され選ばれる病院」を目指し、地域医療、高度専門医療、救急医療を積極的に行っています。

今回のESCOサービスの導入は、JA北海道厚生連としても初めての試みで、事業者の選定に際しては、プロポーザル方式の提案コンペを実施。その結果、芙蓉リースを中心とする事業グループの提案は、当院の要望・課題に合ったきめ細かい内容で、省エネ・コストメリットが大きいことが、採用の決め手になりました。

サービス導入は2014年4月からですが、8月時点のエネルギー削減実績は、すでに計画比114%と順調に推移。エネルギー使用量が多くなる冬場の削減効果が楽しみです。また、省エネによるコスト削減も期待以上になる見通しです。今後も、さらなる省エネ・省コストに向けた芙蓉リースの提案に期待しています。

ESCO (Energy Service Company) サービスとは

ESCOサービスは、省エネに関する提案や設備導入、資金調達など包括的なサービスをESCO事業者が提供するものです。お客様は、サービスを利用することで削減されたエネルギーコストから、省エネのための改修費用をESCO事業者を支払います。そのため、追加費用を負担せずに省エネを実現でき、将来的な経費を削減することもできます。芙蓉リースでは、2006年に「エネルギー・環境営業室」を設置して以来、ESCOサービスの取り扱い実績を伸ばし、多くの自治体や民間企業のお客様に幅広くご採用いただいています。





日比谷花壇 日比谷公園店の店内にて

PCのリユース・リサイクルで 環境貢献とコスト削減を実現

—「PC Eco & Valueリース」「PCレンタル」

「パソコンを短いサイクルで最新のものに、できればリーズナブルに入れ替えたい」というニーズにお応えするのが、芙蓉リースの「PC Eco & Valueリース」「PCレンタル」です。

グループ会社エフ・ネットとともに中古パソコンを再商品化する体制を整え、一般のリースなどでは散逸してしまうパソコンの付属品を保管しておき、リース・レンタ

ルが満了して返還されたパソコンに「データ消去」などの適切な処置を施して、再販します。

「PC Eco & Valueリース」「PCレンタル」は、中古パソコンのリユース(再利用)が図れるだけでなく、パソコン返却時の中古価値を織り込むことで通常に比べ割安な料金でご利用いただけるため、「環境貢献」と「コスト削減」の両立を実現します。

Customer's VOICE



株式会社日比谷花壇 情報戦略統括部様

PC更新時の課題が解決

日比谷花壇グループでは花と緑を通じた豊かな社会づくりをめざして、全国に約180店舗を展開するほか、カテゴリーにとらわれないフラワービジネスを日々創造しています。お客様により良いサービスを

ご提供するためには、業務用PCを最新型に定期更新することも重要な課題の一つです。環境配慮と低コストを合わせもつ芙蓉リースのPC Eco & Valueリースは、この課題解決にたいへん役立っています。

CSR活動のさらなる進化をめざして

担当役員メッセージ

前例のない分野に挑戦するとき、新たな取り組みを始めるときには、さまざまな苦勞を伴います。課題解決のために何が必要かを考え、糸口を探して、道筋をつける。スピードやタイミングも要求され、まさに“生みの苦しみ”を経験することになります。

このことは、CSR活動においても同様です。このたび当社グループは、「人と地球にやさしい」事業への取り組みを強化することをテーマに、新たな「CSR行動指針」を策定しましたが、挑戦する4つの分野はどれも奥が深く、強い意志をもって課題を乗り越えていかなければなりません。

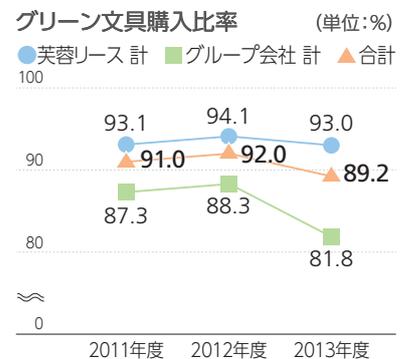
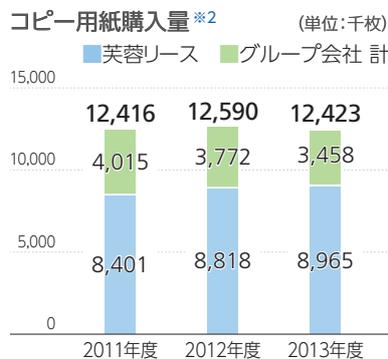
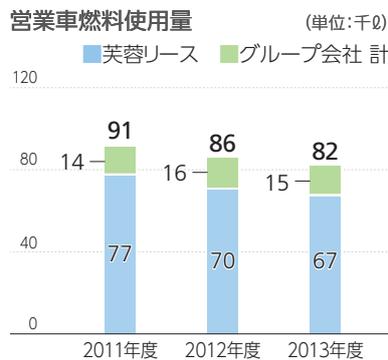
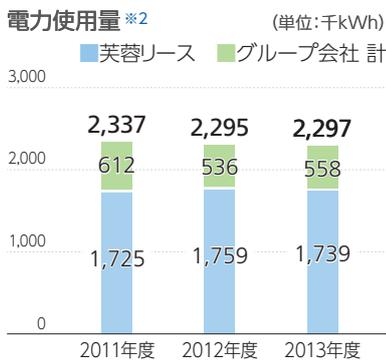
しかし私は、より重要なことは、その取り組みをいかに継続していくかであると考えています。継続のためには、当社グループの持ち味を最大限に活用すること、活動の当事者である社員一人ひとりと認識を共有すること、さらには取り巻く環境変化に敏感に対応することが要求されます。そうでなくては「息の長いCSR活動」には育ちません。

これからも私たちは、多様化するステークホルダーの皆様へのニーズや、変化の速い社会・経済の情勢を的確に捉え、ご期待を大きく超えるような「CSR活動のさらなる進化」をめざしていきたくと考えています。



常務執行役員
藤田 義治

●環境負荷低減の実績※1



※1 対象範囲は、芙蓉総合リース、芙蓉オートリース、エフ・ジー・エル・サービス、芙蓉リース販売、アクア・アート、エフ・ネット、ワイ・エフ・リーシングの国内全事業所。
 ※2 2012年度以降の電気使用量、コピー用紙購入量が芙蓉リースで増加し、グループ会社で減少しているのは、日本抵当証券が2012年4月1日に芙蓉総合リースと合併したためです。
 ※3 CO2実排出量は、「特定排出者の事業活動に伴う温室効果ガスの排出量の算定に関する省令」の排出係数を用いて算定。(電気については各年度の電気事業者別の実排出係数を用いて算定。)ただし、芙蓉リース、およびグループ各社は、特定排出者には該当しません。
 なお、2012年度以降は電気事業者の排出係数が大きくなったため、電気使用量が減少・横這い状態にもかかわらず、CO2排出量が増加しています。
 ※4 CO2調整後排出量は、「特定排出者の事業活動に伴う温室効果ガスの排出量の算定に関する省令」の排出係数を用いて算定。(電気については各年度の電気事業者別の調整後排出係数を用いて算定。)さらに、芙蓉リースが京都メカニズムクレジット(CER)を取得し国へ移転した量を差し引いた値を、「カーボン・オフセット後」として表示してあります。



クリスマスをテーマにした色鮮やかな展示作品

インテリア水槽のデザインを通じ、 地元の生徒・学生と交流 — 笑顔と癒しを届ける社会貢献活動「アクアdeスマイル」

芙蓉リースはグループ会社のアクア・アートとともに、自社商品のインテリア水槽「AQUA ART」を用いて、「都会の子供たちに熱帯魚を見せてあげたい」「アクアリウムで、笑顔と癒しを届けたい」という想いを込めた社会貢献活動「アクアdeスマイル」に取り組んでいます。

2013年度は、この活動の一環として、美術やデザインを専攻する生徒・学生さんたちに水槽のデザインをお願いし、優秀な6作品を東京ミッドタウンでクリスマス期間中に展示しました。自由な発想で飾り付けられた水槽は、楽しさと驚きに溢れ、通りかかったカップルや親子連れが足を止めて見入ってくれました。

今回のデザイン・コンペに参加してくださったのは、芙蓉リース本社の近隣に所在する東京都立工芸高等学校と東京デザイナー学院の皆さんです。両校は、引き続き2014年度も、水槽デザインのコンペに応募してくださ

る予定です。

当社ではこれまでリースという業務柄、近隣の学校、生徒・学生さんたちと交流する機会がありませんでしたが、この活動を通じて継続的な交流をもちたいと考えています。



「梅雨」をイメージした試作品のレイアウト作業

貴重な体験ができて、 最高の気分を味わえました

先生から「デザイン水槽の制作」について聞かされたときは、正直、あまりピンときませんでした。芙蓉リースの本社で実物の水槽を見せていただき、とってもワクワクしました。かわいいお魚たちが泳ぐきれいな水槽の中を、自由なデザインで飾ることができるなんて、本当に素敵だと思いました。

初めての体験でしたが、グループでアイデアを出

しあって制作を進めるのも楽しかったですし、企業から実際のオーダーを受けたことも貴重な経験でした。

苦心した作品が、コンペで選ばれ展示されて、最高の気分です。なかなかこうしたチャンスはないので、後輩たちにもぜひ味わってほしいと思います。



展示会場にて作品とともに

アクアdeスマイル活動の ロゴについて

「アクアdeスマイル」活動のシンボルマークとなるロゴができました。このロゴは、都内の美術大学や東京デザイナー学院の学生さんたちに制作を呼びかけ、ご応募いただいた多くの作品の中から選んだデザインです。ポップでカラフルなこのロゴのように、みんながワクワクする楽しい「アクアdeスマイル」活動を、さらに広げていきたいと考えています。



東京デザイナー学院の在校生がデザインしたシンボル・ロゴ



◀リース終了物件を扱う東京3Rセンターの見学



▲社員との懇談会

働く意義を伝えるインターンシップを実施し 次代を担う学生に職業体験の機会を提供

芙蓉リースでは、次代を担う大学生や大学院生に働く意義を伝えることを目的に、リースビジネスへの理解を深め、実際の仕事の一部を体感できるインターンシップを開催しています。

開催4回目となる2014年度は、8月18日～20日の3日間に14名の学生が参加。リースの基本などを学んだ後、契約書類の作成や社員への取材、リース終了物件を

扱う東京3Rセンターの見学を実施し、最終日には若手社員を交えた懇談会を開催して、『働くこと』『学生との違い』について意見交換を行いました。参加学生からは「社会人に向けての意識のもち方や業務について、具体的なイメージをもてた」「普段接する機会が少ない社会人と話しができ、貴重な体験だった」といった感想が寄せられました。2014年度は2月にも開催を予定しています。

社員の意欲に応える、「やる気」応援塾

芙蓉リースでは、当社のコーポレートスローガン「前例のない場所へ。」にチャレンジし続ける、やる気と意欲のある社員を全面的に応援していくことをコンセプトに、『FUYO「やる気」応援塾』を、2013年度からスタートさせています。

応援塾Aは、リース業務のさらなるグローバル化を展望し、社員の英語力とビジネス英語コミュニケーション力の向上を図るため、英会話スクールへの通学を支援しています。また、応援塾Bは、営業能力、マネジメント能力、事業戦略・営業戦略を立案・遂行する能力を高め、専門性向上を図るため、ビジネススクールへの通学を支援しています。

今後も、社員の「やる気」に応え、チャレンジ精神豊かなビジネスパーソンとして成長できるように、制度の充実を図り継続的に実施していきます。



プレゼンテーションを終え「ホッ」とした表情の西岡なつき社員(ホワイトボード前) ～グロービス・マネジメント・スクールでの自主勉強会にて



講師の方々から車椅子の指導を受ける受講者

CSR研修の一環として、 若手社員に福祉・介護研修を導入

芙蓉リースでは、介護事業最大手の株式会社ニチイ学館のご協力のもと、入社2年目の若手社員を対象に「福祉・介護研修」を新たに導入しました。

研修では、「高齢化社会と介護保険制度の現状」「認知症について」などの講義のあと、体験型の学習が行われました。受講者全員が、目・耳・膝などに専用のプロテクターをつけて実施した高齢者の運動機能の疑似体験では、「階段の昇降がこんなに怖いとは!」という驚きの声が多くありました。また、車椅子体験では「乗ってみると、案外怖い」と感想が聞かれました。

本研修をきっかけに、若手社員が高齢化社会を取り巻く状況を理解し、併せて日常の場面、例えば、電車や雑踏で高齢者の方を手助けできるようになることを期待しています。本研修は、今後も継続して実施する予定です。



杖と手すりにすぎる受講者

●編集方針

Webサイトとの情報の切り分けを図り、より読みやすくコンパクトな冊子にしました。

「CSR報告書2014／ハイライト版」では、進捗のあった取り組みや注力している取り組みをコンパクトにまとめました。

詳細な情報はWebサイトに掲載しています。グループ各社の取り組みもWebサイトで報告していますので、ぜひご覧ください。

報告対象組織

芙蓉総合リースおよび連結子会社33社および関連会社3社

報告対象期間

2013年度(2013年4月1日～2014年3月31日)
※一部、対象期間外の報告を含んでいます。

発行時期

2014年10月(前回発行2013年10月)



Web <http://www.fgl.co.jp/csr/>

●表紙について

社会貢献活動「アクアdeスマイル」

インテリア水槽「AQUA ART」を使った当社グループのこの社会貢献活動は、オフィスや街中、そして都会の子供たちに「自然に触れる機会」と「笑顔」を届けることをめざしています。

本報告書の表紙では、夢中になって「AQUA ART」をのぞいてくれる子供たちと、「アクアdeスマイル」活動を支えてくれる小さなお魚たちに登場してもらいました。



FUYO LEASE

芙蓉総合リース株式会社

〒101-8380
東京都千代田区三崎町3丁目3番23号(ニチレイビル)
TEL:03(5275)8800(代)
<http://www.fgl.co.jp/>

「CSR報告書2014」お問い合わせ先
コーポレートコミュニケーション室
TEL:03(5275)8891 FAX:03(5275)8950



見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。



FSC認証紙の使用
「適切に管理された森林からの木材(認証材)」を原料として、FSC(Forest Stewardship Council, 森林管理協議会)の基準に基づいた紙を使用しています。



環境負荷のより少ない植物由来のベジタブルインキを使用しています。